

留学先での生活

島村 祥徳

私はこの留学を通して土地や文化の多様性を肌で感じている。三年前、私が大学一年生の時にアリゾナ州に半年間留学をした。アリゾナ州はメキシコと国境を接する砂漠に覆われた地域であった。それに対して、今私がいるのは、カナダ国境から車で約一時間、ワシントン州のベリンハムという街である。アメリカの南端と最西端、このことを再確認するだけでも感慨深い。

砂漠に囲まれたアリゾナでは、サソリ、サボテンなどの動植物が見られたが、ベリンハムは、海、山、湖に囲まれた土地で、針葉樹林が広がり、リスや鹿が住む。アリゾナにはおおらかな気質の人が多かったのに対し、ワシントンには穏やかな人が多いように思われる。こういった多様性を実際に肌で感じるうちに、自分が刺激を受け、広い心持になって、新しい事に挑戦したくなってきた。

日本では国際関係学を専攻しているが、こちらでは特にビジネス分野に力点を置いて学んでいる。ビジネスの授業は、私が日本で学んだ事にも関連しており、また教授の中には日本での勤務経験のある方々もいて、講義で日本に関する話題が多く取り上げられ、学問の分野を越えて学ぶ楽しさを味わった。

生活面では、私は趣味で音楽を勉強していて、音楽学部の生徒を誘って大学のイベントで演奏したり、セッションに参加したり、バーにコンサートを見に行ったり、先生を見つけてレッスンを取ったりしている。

この音楽仲間に、さいたまスーパーアリーナのけやき広場で定期的に行われているジャズのイベントを紹介したところ、イベントの規模の大きさに驚いて、とても関心を持ってくれた。また、川越市で年に一度行われている唐人揃いのパレードを紹介する機会もあった。この催しは、日韓の文化交流を通して友好を深めるという目的で私の高校時代の恩師が関わっているのだが、その縁で私も運営のサポートをしたことがある。韓国からの留学生はこの話を聞き、日韓交流のためにこのようなイベントが開かれていることに驚き、日本という国が好きになったといていた。

私はこの留学によって、大学での学びはもちろんのこと、生活や交友を通じてアメリカの社会と文化を学ぶだけでなく、さまざまな人たちとの交流から新たな人間関係を築くことができた。そして彼らとの強い絆に手ごたえを感じている。この留学の機会を与えてくれた方々にとても感謝している。



留学生たちと



近所の公園から見える景色



コンサートにて

平成 25 年度 協定認定留学コース奨学生
留学先: ウェスタンワシントン大学